

第62回 大阪国際フェスティバル2024

中之島・フェスティバルホール

関西全力 春は「6オケ」

「第62回大阪国際フェスティバル2024」が、来年4月に開幕する。在阪の四つのオーケストラが集う春の恒例「4オケ」は、兵庫芸術文化センター管弦楽団と京都市交響楽団が加わり、「関西6オケ」に。それぞれの指揮者が意気込みを語る。(田部愛)

今年4月、関西フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者に就任した鈴木優人。来年6月の大阪国際フェスティバルで関西フィルハーモニー、アルゼンチンタンゴの巨匠でバンドネオン奏者のアストル・ピアソラとバロックの名匠ピバルディ、20世紀を代表するロシア出身の作曲家ストラビンスキーの楽曲を取り上げる。鈴木は大学時代にピアソラに傾

鈴木優人



©Marco Borggreve

「四季」+「四季」を披露

倒し、いまも時々、仲間とライブハウスで演奏するほど好きだという。この公演のために、ピアソラの「ブエノスアイレスの四季」とピバルディの「四季」を組み合わせてオーケストラ版に編曲して演奏する。バンドネオンの三浦一馬、バイオリンの成田達輝も出演する。後半は、ストラビンスキーの「春の祭典」を披露する。

× 関西フィル

6月

8月 マーラー「復活」再び

2013年4月、大阪フィルハーモニー交響楽団がマーラーの「復活」で新フェスティバルホールの開館を祝った。以来、年10回の定期演奏会をこのホールで開催し、数々の名演を送り出してきた。そして2024年8月、3代目音楽監督・尾高忠明が率いる大フィルが、大阪国際フェスティバルで再びホールに「復活」を響かせる。世界で紛争が続くなか、平穏な日常に戻ることを願う、森谷真理(ソプラノ)、加納悦子(メゾソプラノ)、大阪フィルハーモニー合唱団約150人の歌声とともに演奏する。

大阪交響楽団

R.シュトラウス
歌劇
「ばらの騎士」組曲



©ai ueda

Kazufumi Yamashita
山下一史

今年初めて参加した4オケ。大阪交響楽団と先駆けを務めて、その後は客席で聴きました。演奏はそれぞれ素晴らしいものでしたが、何よりも客席の熱狂が素晴らしい。こんなお客さまに恵まれた大阪で演奏できることは何と幸せなことか。さて次回は6オケ。楽しみです。

兵庫芸術文化センター 管弦楽団

ベルト
カントゥス
ーベンジャミン・ブリテンの思い出に
ブリテン
シンフォニア・ダ・レクイエム



©Naoya Yamaguchi

下野竜也

Tatsuya Shimono

関西でこれだけ充実したオーケストラの数々が活動しているのは、誇るべきだと思います。それが一堂に会することで、それぞれの個性を楽しめる。とても素敵なことです。老舗のオーケストラと若いオーケストラが集うのは、互いに刺激にもなると思います。

兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)の持ち味は、若さと国際色の豊かさ。その持ち味を生かした機能性を感じていただける曲を選びました。

シンフォニア・ダ・レクイエムはそれぞれの楽器がコンチェルトのように大活躍します。激しく始まり、最後は美しい祈りに変化していきます。この曲の前にふさわしいと考え、カントゥスを選びました。不思議な曲ですが、初めて聴く方はきっときれいだと思ってくださるはず。これらの作品を通して、オーケストラならではの多彩な表現をお客様に楽しんでいただければと思います。

関西フィルハーモニー 管弦楽団

シベリウス
交響曲第5番



©山崎伸

Sachio Fujioka
藤岡幸夫

4オケがなんと6オケに更にスケールアップしてびっくり!これまで何度も取り上げてきた僕の最も愛する交響曲、シベリウスの5番をお届けいたします。母国フィンランドのロシア支配からの独立や、死を覚悟していた病の完治の喜び、大自然への賛歌!関西フィルの魅力をお客様に堪能して頂きます!

京都市交響楽団

プロコフィエフ
「ロメオとジュリエット」組曲から
セレクション



©Felix Broede

Nodoka Okisawa

沖澤のどか

以前までの4オケの話聞き「大阪で面白いことをやっているな」と思っていたので、まさか京都も参加させていただけるなんてうれしい驚きでした。他のオーケストラがどんな音を出すのか興味がありますし、京都市交響楽団(京響)がどんな影響を受けるか楽しみです。

京響は4管編成で、大編成のオーケストラならではのドライブ感や音響の幅が強いです。「ロメオとジュリエット」のドラマを音で描く際に、京響の豊かなサウンドと高い技術によって素晴らしい演奏になると確信しています。

もちろん「モンタギュー家とキャピレット家」などの曲ははずせませんが、家族同士の闘争以上に、ロメオとジュリエットの微妙な気持ちの変化やジュリエットが成長していく姿に焦点をあて、濃厚でロマンチックなセレクションにしようと考えています。

グラフィック・広戸美香

大阪フィルハーモニー 交響楽団

エルガー
エニグマ変奏曲



©Martin Richardson

Tadaaki Otaka
尾高忠明

大阪4オケが拡大して6オケになる!すごい企画を実行してしまう大阪はやはりすごい街だ!僕はNHK交響楽団研究員時代に、岩城宏之さんの副指揮でN響の練習をしたのが、「エニグマ変奏曲」との出会いだ。今回は岩城さんに捧げるつもりで演奏しようかな?

2公演 きょう一般発売

■関西6オケ! 2024

2024年4月20日(土)午後1時▽大阪交響楽団(山下一史指揮) R.シュトラウス「歌劇『ばらの騎士』組曲」、大阪フィルハーモニー交響楽団(尾高忠明指揮)エルガー「エニグマ変奏曲」、兵庫芸術文化センター管弦楽団(下野竜也指揮)ベルト「カントゥスーベンジャミン・ブリテンの思い出に」、ブリテン「シンフォニア・ダ・レクイエム」、関西フィルハーモニー管弦楽団(藤岡幸夫指揮)シベリウス「交響曲第5番」、日本セ

ンチュリー交響楽団(飯森範親指揮)ドビュッシー「海」管弦楽のための三つの交響的素描、京都市交響楽団(沖澤のどか指揮)プロコフィエフ「ロメオとジュリエット」組曲からセレクション▽S席1万3千円、A席9500円ほか。12月23日(土)午前10時一般発売▽協賛:朝日放送グループホールディングス、関西電力、京阪ホールディングス、サントリーホールディングス、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店

■鈴木優人×関西フィル 二つの「四季」と「春の祭典」

2024年6月12日(水)午後7時▽鈴木優人(指揮

・鍵盤楽器演奏・編曲)、関西フィルハーモニー管弦楽団、三浦一馬(バンドネオン)、成田達輝(バイオリン)▽ピバルディ「四季」+ピアソラ「ブエノスアイレスの四季」、ストラビンスキー「春の祭典」▽S席7500円、A席6500円ほか。12月23日(土)午前10時一般発売▽協賛:朝日放送グループホールディングス、サントリーホールディングス、竹中工務店

■大阪フィルハーモニー交響楽団×尾高忠明 マーラー「交響曲第2番『復活』」

2024年8月2日(金)午後7時▽独唱:森谷真理(ソプラノ)、加納悦子(メゾソプラノ)、大阪

フィルハーモニー合唱団▽3月チケット発売予定▽協賛:朝日放送グループホールディングス、竹中工務店

■ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
2024年11月9日(土)

◇会場:フェスティバルホール(大阪・中之島)
◇主催:朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホールほか

◇チケットはフェスティバルホール(06・6231・2221、<https://www.festivalhall.jp>)ほか主要プレイガイドで販売